



Press Information

VPR16-031

2016年5月2日(月)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン、グループの再編によって力強く前進

- CEO マティアス ミュラー:「2016年は我々にとって過渡期の年となり、改革を加速する年となる」
- デジタル化やモビリティサービスといった今後重要度が増していく分野では、これまで以上に他の企業との連携や株式投資を視野に入れる
- e モビリティはフォルクスワーゲンの代名詞の一つになる
- 2016年は健全なビジネスを回復する上で新たな挑戦の年になる
- 2015会計年度:堅調な事業活動が、ディーゼル案件に起因する特別損失の影響を受ける

ウォルフスブルグ 2016年4月28日

フォルクスワーゲン グループは、再編によって着実に前進しており、2016年に将来の成功を見据えた重要なステップを実施しようとしています。「2016年はフォルクスワーゲンにとって過渡期の年となるでしょう。また、改革を加速し、新しく、より良いフォルクスワーゲンの基盤を確立する年となるでしょう」と、フォルクスワーゲン AG の取締役会会長(CEO)のマティアス ミュラーは、木曜日にウォルフスブルグで開催された2015年の年次決算会見の席で述べています。ミュラーによれば、自動車産業は現在、次の大きな革新的飛躍と根本的な変革の時期に差し掛かっています。「この歴史的な変革を控えて、我々は有利なスタート位置に立っています。我々は、競争に勝ち抜くための、多くの強みを持っているからです」と、ミュラーは強調しています。とりわけ、グループ傘下の12の強力なブランド、高い技術力、国際市場での大きな存在感、品質へのこだわり、熱意にあふれた従業員、健全な財務状況などについて言及しました。「我々は、未来のモビリティ世界を構築する上で、重要な役割を果たすことを目指しています」と、ミュラーは説明しています。改善すべき余地もあるとしながらも、次のように述べています。「我々の目標は、フォルクスワーゲン グループを、より効率的で機敏な対応力があり、より起業精神に富み、勇敢で、よりサステナブルで、テクノロジー面でより革新的な企業にしていくことです。言うまでもなく、それは大変な課題ですが、我々はそこに向けて力強く歩みを進めています」と、ミュラーは述べています。

フォルクスワーゲン グループは現在、今年の中頃に発表される予定の、戦略の策定に注力しています。この戦略は、デジタル化、ネットワーク化、e モビリティ、新しいモビリティサービスなど、自動車産業の将来に向けた領域に焦点を当てたものになります。フォルクスワーゲンは、電気自動車やプラグインハイブリッドモデルの発売に代表されるように、それらすべての領域で既に取り組みを開始しています。「しかし、将来はその取り組みを、さらに系統的かつ集中的に実施するつもりです。Strategy 2025では、そのフレームワークが示されることになり」と、ミュラーは表明しています。

取締役会会長のミュラーは、e モビリティの分野で主導的役割を果たしていくという目標を再確認した上で、2020 年までにフォルクスワーゲン グループで、合計 20 以上のニューモデルを追加すると語りました。フォルクスワーゲン ブランドでは現在、電気自動車のための基本アーキテクチャーである「モジュラー エレクトリフィケーション ツールキット(MEB)」を開発中です。

MEB に基づいて設計された最初のクルマが、2010 年代末には街で見られるようになるでしょう。「我々は電気自動車を、フォルクスワーゲンの新しい代名詞の一つにしようと考えています」と、ミュラーは説明しています。今後重要になっていく様々な分野のために、社内のリソースを育て、拡大してだけでなく、これまで以上に他の企業との新たな連携や、戦略的投資なども視野に入れた計画を立てています。「自動車メーカーが、同じセクター内だけですべてのことを行う時代は終わりました。今後もそのようなことはないでしょう。分野を限定したり、単独で努力したり、自分たちがもっとも知識があつて良い結果も出せるという思い込みは、目標を実現する助けにはなりません」と、ミュラーは述べています。ミュラーは、デジタル化と新しいモビリティサービスの 2 つの分野を例として挙げました。「これらはいずれも、今後自動車メーカーが、多くの利益を上げられる可能性がある分野です。我々は、これらの分野にできる限り参入していきたいと考えています」と、ミュラーは説明しています。「我々は、新しいモビリティサービスに関しては、幾つかの有望なアイデアを実現するために懸命に取り込んでいます。そのための議論も、かなり進展しています。さらに、グループ全体のために、将来のモビリティサービス事業を、企業家精神に基づいて迅速かつ俊敏な対応力で推進できる独立法人を近い将来設立する予定です」と、ミュラーは発表しました。

今年はグループの大規模な再編に加えて、ディーゼル案件への対応が、他に優先する活動事項となるでしょう。この問題に関してフォルクスワーゲンにとって最も重要な課題は、影響を受けたお客様に、説得力のある解決策を提供することであると、ミュラーは述べています。「最後の 1 台に至るまできちんと対応することが、もっとも重要な任務だと考えています。」ディーゼルエンジンに不正なソフトウェアを搭載したことは、明らかなルール違反であり、道徳的な道を外れた行為でした。「本当に申し訳ないと思っています。これまでフォルクスワーゲンに信頼を寄せてきた多くの人々を落胆させてしまったことを、なにより残念に思います。我々は責任から逃れることはありません。また、信頼を回復するために、出来るだけのことを行っていききたいと考えています」と、ミュラーは強調しています。

フォルクスワーゲン グループが、ディーゼル案件に起因する巨額な特別項目を計上することになった昨年度を振り返って、ミュラーは次のように述べています。「フォルクスワーゲン グループの業績自体は、とても好調です。幾つもの持続可能な事業の柱が構築されているため、企業としての体質は、これまで以上に揺るぎないものになっています。」最高財務責任者(CFO)のフランク ヴィッターは、次のように付け加えています。「自動車部門の純流動性資産が、2015 年末までに 176 億ユーロから 245 億ユーロに増加していることは、当社の流動性政策が健全であることを明確に示しています。」

2015年の主な業績

2015会計年度におけるフォルクスワーゲン グループ全体の販売台数は、前年比2.0%減となる990万台でした。「販売台数の減少にもかかわらず、年間売上高は増加しています」と、ヴィッターは説明しています。とりわけ、「為替レートが全体として有利に推移したことおよびファイナンシャル サービス事業が好調だったこと」により、売上高は2,133億ユーロ(前年:2,025億ユーロ)に達し、前年度の数値を5.4%上回りました。特別項目を除外すれば、フォルクスワーゲンの営業利益は、2014年度の数値とほぼ同じレベルの128億ユーロでした。特別項目を除いた営業利益率は、想定範囲内の6.0%でした。

ディーゼル案件により、2015年度に合計162億ユーロの特別費用が計上され、それが決算に反映されています。この数字には、関連するディーゼルエンジンに対する未決定の技術的対策および買い戻しに関わる78億ユーロの引当金が含まれています。さらに、世界各国での訴訟リスクに備えた70億ユーロの引当金が計上されています。フォルクスワーゲン グループは、2015年の決算報告に、現時点で想定および算出可能なディーゼル案件に関するあらゆる費用を引当金として計上しています。「ディーゼル案件以外にも、トラック事業および南米の乗用車事業を再編するための特別費用が2億ユーロずつ計上されており、この費用もマイナスの影響を与えています」と、ヴィッターは説明しています。「また、米国およびカナダ当局が、欠陥の疑いのあるエアバッグを交換するよう全ての自動車メーカーに命じたことから、その費用として3億ユーロの引当金を計上しています。」

それらを含めて、2015会計年度の決算書に特別項目として計上された損失の合計は169億ユーロになりました。結果として、営業利益は大きく影響を受けて-41億ユーロ(同127億ユーロ)となりました。営業利益率も-1.9%(同6.3%)に減少しました。

なお、新車の販売台数には、中国における合弁事業の台数も含まれています。フォルクスワーゲンは昨年、中国(香港を含む)で、2014年より3.4%少ない350万台の車両を販売しました。しかし、中国における合弁事業の数字は、グループの売上高および営業利益には反映されていません。事業がスタートして以来、持ち株法に基づいた会計処理が行なわれています。2015年に中国での合弁事業でフォルクスワーゲンに分配される利益は、約52億ユーロでした。

グループの財務収支は、昨年28億ユーロに増加しました(同21億ユーロ)。これには、スズキ株の売却益15億ユーロが含まれます。有利な為替レートと低くなった金利負担により、中国合弁事業からの持分利益も前年より増加し、プラスの影響を及ぼしました。その一方で、報告日におけるデリバティブ金融商品の評価損、およびMAN SEの経営権と損益の譲渡に伴うプットオプションと補償権の評価損が、損失として計上されました。

全体として、2015年におけるフォルクスワーゲン グループの税引き前利益は-13億ユーロ(同148億ユーロ)となりました。税引き前営業利益率は、前年の7.3%から-0.6%に減少しました。税引き後利益は-14億ユーロです(同118億ユーロ)。

営業利益は大幅に減少しているものの、グループの財務状況は引き続き堅調であることから、取締役会および監査役会は、2016年6月22日に開催されるフォルクスワーゲン AG の年次株主総会で、普通株に対し1株あたり0.11ユーロ、優先株に対して1株あたり0.17ユーロの配当を提案する予定です。これにより、フォルクスワーゲン グループは、株主に対して配当を払い続ける意思を示しつつ、自己のリソースで現状を乗り切ることのできる十分な体力を持っていることを明確に示したいと考えています。

2015年において、自動車部門の投資収益率は大幅に低下しました。これは主に特別項目によるものです。対象期間の投資収益率は、前年度の14.9%に対し-0.2%に減少しました。ファイナンシャル サービス部門における税引き前株主資本利益率は、前年度の12.5%からわずかに減少して12.2%になりました。これは主に、自己資本に対する規制強化によって、持ち株比率が高まったことに起因しています。

フォルクスワーゲン グループの財務状況は依然として良好です。自動車部門のネットキャッシュフローは2015年に28億ユーロ増加して89億ユーロになりました。自動車部門の純流動性資金は、245億ユーロ(同176億ユーロ)に増加しています。これは、グループの健全な流動性政策を表しているもので、直面する課題を克服し将来にわたって収益性を保ちながら成長できるグループの財務的安定と柔軟性を確保します。

自動車部門の売上高に対する設備投資の比率は、2015年に0.5ポイント増加して6.9%になりました。これは、フォルクスワーゲンは依然として、予測値の範囲内に留まっていることを意味しています。生産設備への投資のほか、主として駆動システムの電化、モデルラインアップの拡大と環境対応、モジュラーツールキットの開発などに資金を投入しました。

ブランドおよびビジネス分野

フォルクスワーゲン乗用車ブランドは、2015年に、前年同期比6.5%の増加となる1,062億ユーロ(同998億ユーロ)の売上高を記録しました。為替レートが有利に推移し、効率化プログラムも成果を上げた反面、ブラジルとロシア市場の縮小および排ガス案件に絡むマーケット対策コストによる悪影響を補うことはできませんでした。その結果、特別項目を除外した営業利益は、21億ユーロに減少しました(同25億ユーロ)。営業利益率は2.0%(同2.5%)でした。従来と同様、これらの数字には、順調に推移している中国での合弁事業の売上高、利益は含まれていません。

アウディは、2015年に前年(538億ユーロ)を8.6%上回る584億ユーロの売上高を記録しました。これは主に、販売台数の増加によるものです。特別項目を除外した営業利益は51億ユーロで、ほぼ前年(52億ユーロ)並みでした。販売台数の増加と有利に推移した為替レートにより営業利益が増加した一方で、新製品や新技術への開発投資および海外の生産ネットワークへの投資などが、マイナスの影響を及ぼしました。営業利益率は8.8%(同9.6%)でした。アウディは、ディーゼル案件により2億9,800万ユーロの特別項目を計上しています。アウディ ブランドの財務諸表には、ランボルギーニとドゥカティブランドの主要な業績指標が含まれています。

2015年のシュコダの売上高は、前年(118億ユーロ)から6.2%増加して125億ユーロになりました。販売の増加およびモデルミックスの好影響、材料コストの減少および有利に推移した為替レートなどにより、営業利益は9億1,500万ユーロ(同8億1,700万ユーロ)に増加しています。営業利益率も7.3%に上昇しました(同7.0%)。

2015年のセアトの売上高は、86億ユーロ(同77億ユーロ)でした。営業損失は大幅な改善を見せ、1,000万ユーロ(同1億2,700万ユーロの損失)となっています。これは主に、販売の増加、有利に推移した為替レート、コストの適正化によるものです。

2015会計年度に、ベントレーは、前年比10.9%の増加となる19億ユーロの売上高を記録しました。営業利益は、34.9%減少して1億1,000万ユーロとなりました。為替レートは有利に推移し、コスト削減も進みましたが、販売の減少、新車発売のための支出を相殺するには至りませんでした。営業利益率は5.7%(同9.7%)でした。

ポルシェブランドは、2015年も好調な業績を維持しました。215億ユーロの売上高は、前年(172億ユーロ)の数字を25.2%上回っています。営業利益も25.2%増加して34億ユーロ(同27億ユーロ)を記録しました。営業利益率は、厳格な収支管理により、モデルミックスの悪化、製造コストの上昇、ニューモデル/新技術の開発投資などを相殺して、前年と同レベルの15.8%を確保しています。

フォルクスワーゲン商用車ブランドの売上高は、2015年度に103億ユーロ(同96億ユーロ)に増加しました。販売台数が伸びて、為替レートも好転しましたが、それ以上に製品ラインアップを刷新する費用が増加し、特別項目計上前営業利益は前年比24.2%減少して3億8,200万ユーロになりました。

2015年度においては、トラック、バスの世界的需要が、前年のレベルを下回りました。このような環境下で、スカニアは105億ユーロ(同104億ユーロ)の売上高を記録しています。営業利益は、10億2,700万ユーロ(同9億5,500万ユーロ)に増加しました。為替レートに加えて、サービス事業の拡充が収支に好影響を及ぼしました。MANの2015年の売上高は137億ユーロ(同143億ユーロ)で、特別項目計上前営業利益は2億7,700万ユーロ(同3億8,400万ユーロ)でした。

フォルクスワーゲンファイナンシャルサービス部門は、2015年も成長を続けて過去最高の業績を記録しました。フォルクスワーゲングループの各ブランドとの緊密な連携に加え、既存のマーケットでの売上げ増、さらなる国外市場への進出などが、好業績につながりました。ファイナンシャルサービス部門の営業利益は、前年同期から12.9%上昇して19億ユーロに達しています。2015年中に世界中で、前年度よりも2.8%多い520万件の新規ローン、リース、サービス/保険契約を締結しました。

2016年の見通し

フォルクスワーゲングループは、前年を上回る販売台数を記録して2016年のスタートを切っています。1月～3月の販売台数は、前年同期比0.8%増となる250万台となりました。フォルクスワーゲン乗用車

を除く、グループのすべてのブランドが、第一四半期に、地域によっては大幅に販売を伸ばしています。予想されていたとおり、販売実績は地域によって大きなばらつきがありました。例えばロシアとブラジルの状況は、依然として、どの自動車メーカーにとっても厳しいものでした。その一方で、ディーゼル案件にもかかわらず、米国における販売台数の減少は、主にアウディとポルシェの引き続き好調な業績によって、それ程大きくはありませんでした。米国とは対照的に、2016年第一四半期におけるヨーロッパおよびアジア太平洋地域での自動車販売は非常に堅調でした。中国において、フォルクスワーゲン グループは、30年以上前にこのマーケットに参入して以来、もっとも力強い業績で2016年をスタートしています。2016会計年度におけるフォルクスワーゲン グループの販売台数は、中国における販売増加により、全体として前年と同じレベルに留まると見込んでいます。

排ガス案件に加え、非常に競争の激しい環境、不安定な金利および為替レート、原材料価格の変動といった全ての要素が、困難な状況をもたらすでしょう。その反面、全ブランドによって実行されている効率化プログラムおよびモジュラー ツールキットによる、プラスの効果も予測しています。

フォルクスワーゲン グループの売上高は、経済状況(特に南米およびロシア)、為替レートの変動、排ガス案件を考慮すると、最大で前年比マイナス 5%程度になると取締役会は予測しています。グループの営業利益に関して、取締役会は、2016年の営業利益率は5.0~6.0%の間になると想定しています。乗用車部門の売上高は大幅に減少し、営業利益率は5.5~6.5%程度になると予想しています。商用車部門の売上高は、基本的には前年と同レベルを維持し、営業利益率は2.0~4.0%の間になると見込んでいます。

ファイナンシャル サービス部門に関しては、売上高および営業利益共に前年と同レベルになると予測しています。

CEO マティアス ミュラーは、2016年もまた、フォルクスワーゲン グループにとって挑戦の多い年になると述べています。「楽観視できるいくつかの要素も見られますが、現実主義を問われるに違いありません。」「我々はこの危機にあっても、歩みを緩めることはありません。むしろ、すべてのブランドで、販売を行っているすべての市場で、歩みを早めようとしています。全体として見ると、現在の展望として、2016年は再び事業を確実に成長させる機会を得ることができると考えています」と、ミュラーは説明しています。フォルクスワーゲンは、現在の厳しい状況から抜け出して、より強い企業として蘇ります。「なぜなら、我々は、事業面において強固なポジションを確保しているからです。また、財務体質が強力であり、我々が今何をなすべきか認識しており、そして、必要なことのすべてを実行していく決心があるからです」と、CEO ミュラーは確信をもって述べています。